

川崎市の再生可能エネルギー への取組み

カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略
(CCかわさき)

グリーンエネルギー政策環境セミナー

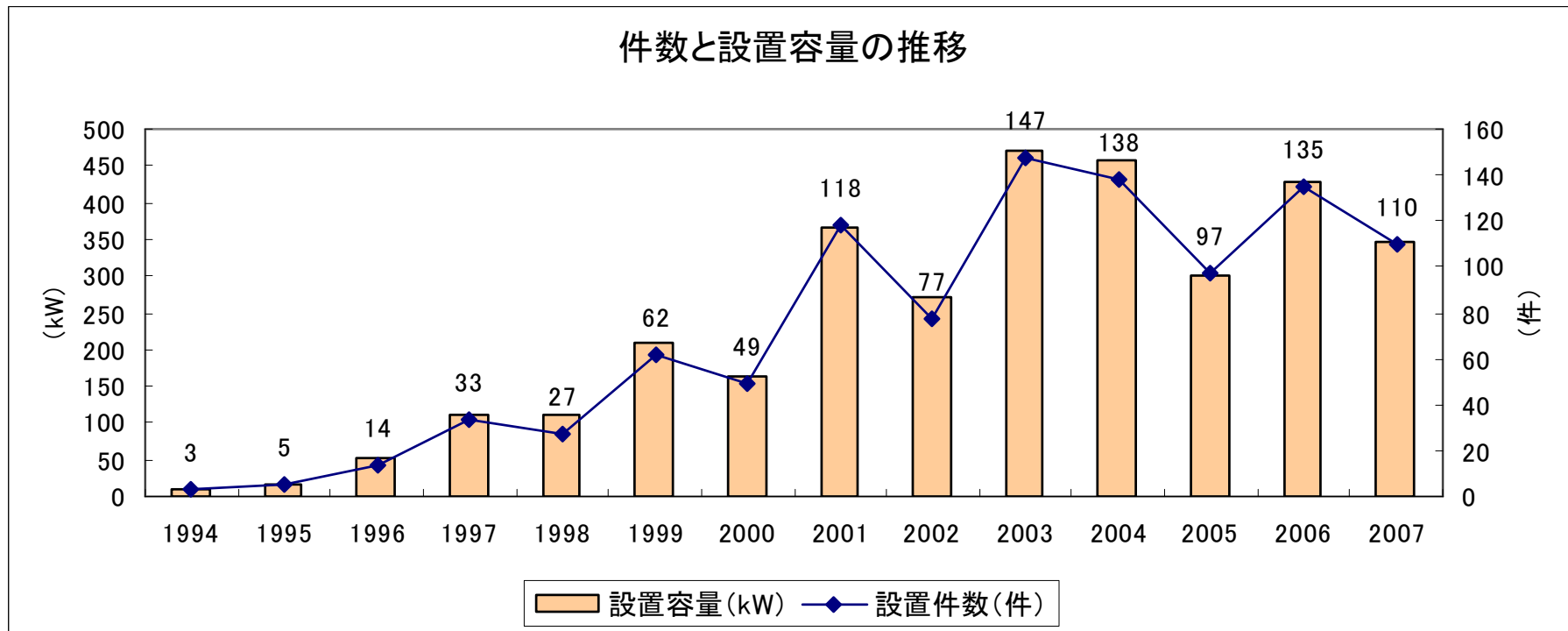
2008年7月1日

川崎市

川崎市の太陽光発電設備設置の推移



●世帯数が2万世帯近く増加しているにも関わらず
設置件数は前年比で減少



(太陽光発電の推進)

- ・住宅用太陽光発電設備設置補助事業(3万円/kW、上限12万円)
- ・太陽光発電の普及啓発とGIAC助成金を活用した市民共同発電所活動の支援

(グリーン電力購入の推進)

- ・低CO2電力や太陽光発電の電力を購入
- ・カーボンオフセットし、再生可能エネルギーの拡大を需要側から牽引
- ・今年度は本庁舎、2・3庁舎においてモデル実施、
消費電力の5%分のグリーン電力証書を購入
- ・43万kWh相当の太陽光発電設備を設置したのと同じ効果

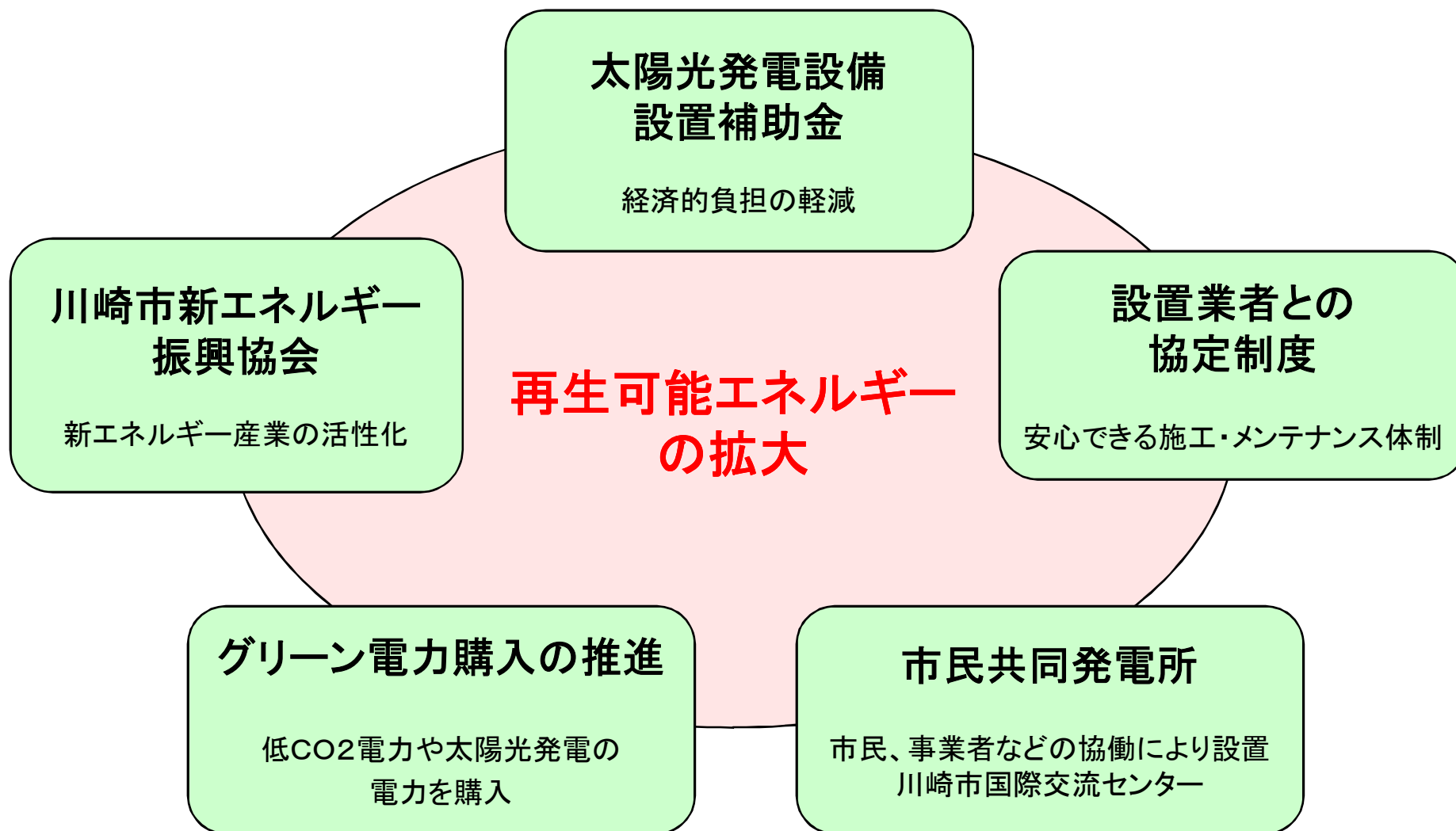
(設置事業者との協働)

- ・設置事業者との協定 → 「住宅工事の契約における消費者トラブル防止に
関する協定締結事業者一覧」
- ・川崎市内の設置事業者の組織化 → 新エネルギー振興協会

(市民・事業者・行政の連携)

- ・市民、事業者、行政が連携し、情報発信するための組織の結成 → カーボン・チャレンジ川崎エコ会議

多様な主体の協働による再生可能エネルギーの取組



グリーン電力に関する取組



■グリーン電力購入

- CO2排出係数の少ない電力を入札・購入
- 再生可能エネルギーを選択して購入本庁舎等の5%分を購入(約43万Kw)
(モデル事業)

■各種イベントへの活用

- 7月7日の本庁舎電力はグリーン電力(太陽光発電)を使用
- 環境ミーティング、冬のイルミネーションなど川崎市主催イベントで活用
- 市内のスポーツ競技(サッカーJリーグ、アメリカンフットボール・ワールドカップ)で活用

Jリーグ 6月24日記者発表

わたしたちのホームゲームは自然エネルギーを利用して開催されます。

Jリーグ10クラブのグリーン電力は、合計3万8千kWh (7月2日~13日)

これは、一般家庭約3900世帯分の一日電力使用量に相当します。

二酸化炭素にすると約13トンカーボンオフセットしています。

八都県市
連携で実現



7月7日は
八都府市一斉行動日
できるだけ明かりを
消しましょう
消灯時間
20:00～20:10



OFFする日。

7月7日(月)は、地球温暖化防止一斉行動日として一斉消灯を実施します。

実施場所→まいど新都心、川崎駅周辺、草葉新都心、みなみみらい川崎地区、有明町、鶴岡新都心ほか

明かり(電球)を消す

できるだけの明かりを消します。

明かり(電球)をかえる

電球消費の少ない電球形蛍光灯にかえます。

明かり(電球)をかえる

再生可能エネルギーをえらびます。



八都府市地球温暖化防止一斉行動(エコウェーブ)2008.7.7

一斉行動日以降も温暖化防止行動に、引き続きご協力をお願いします。

主催：八都府市首脳会議 (埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、茨城県、川崎市、千葉県、さいたま市) 首都圏連合フォーラム

後援：環境省

協力：社団法人 日本電機工業会、NECライティング株式会社、東芝ライテック株式会社、日立ライティング株式会社、松下電器産業株式会社、照明社、三菱電機システム株式会社、株式会社ヨドバシカメラ、株式会社コジマ、株式会社ケーブートールディングス、株式会社ビックカメラ、カメラマロックス、社団法人 日本商工会議所 関東地区協議会、100万人のキャンドルナイト

八都府市首脳会議環境問題対策委員会 <http://www.8kenshi-kankyou.jp/>



電球形蛍光灯と白熱電球とのコストを比較すると...

54Wの白熱電球と同じ明るさに相当する12Wの電球形蛍光灯と比較すると、蛍光灯の寿命は白熱電球の約6倍、電気代は1/4以下です。また、54Wの白熱電球から12Wの電球形蛍光灯へ取り替えると、年間46.6kgのCO₂が削減できます。



グリーン電力証書とは...

自然エネルギーにより発電された電力は、二酸化炭素を排出しないなどの理由から、地球環境や未来をより良くするといった「環境価値」を持っています。この「環境価値」のある自然エネルギーを利用していることを証明するものが「グリーン電力証書」です。この「グリーン電力証書」を購入した個人や団体は、普通の電力を使用しても、自然エネルギーから作られた電力を使用し、たとえみれば、間接的に地球環境に貢献したことになります。

●自然エネルギーとは?

一般的に、枯渇する恐れのないエネルギーであり、利用に際して自然環境に大きな影響を及ぼさないエネルギー源及びエネルギー利用形態を指します。主なものは、太陽光、太陽熱、風力、小規模水力、バイオマス、地熱、地熱、地熱温度差などが挙げられます。

グリーン電力証書(見本)



グリーン電力を使用して開催される試合(カーボンプリントゲーム)の状況

| チーム名 | 開催日時 | 開催地 | 対戦チーム |
|----------------|--------------|------------|------------------|
| プロ野球 | | | |
| 埼玉西武ライオンズ | 7月5日(土)14時～ | 西武ドーム | 東北楽天ゴールデンイーグルス |
| 千葉ロッテマリーンズ | 7月5日(土)18時～ | 千葉マリンスタジアム | 福岡ソフトバンクホークス |
| 読売ジャイアンツ | 7月5日(土)18時～ | 明治神宮野球場 | FC東京 |
| 東京アールディージャ | 7月12日(土)18時～ | NAIスタジアム大宮 | ジェフユナイテッド市原・千葉 |
| ジェフユナイテッド市原・千葉 | 7月13日(日)18時～ | アクトシティアリーナ | コンサドーレ札幌 |
| 札幌サンプラザ | 7月6日(日)18時～ | 日立前サッカー場 | ガンバ大阪 |
| FC東京 | 7月2日(水)19時～ | 味の素スタジアム | 大分トリニータ |
| 東京ヴェルディ | 7月19日(土)18時～ | 味の素スタジアム | 京セラV.V.フットボールクラブ |
| 川崎フロンターレ | 7月6日(日)18時～ | 味の素スタジアム | 横浜FC |
| 横浜FC | 7月10日(水)18時～ | 横浜スタジアム | アビスパ福岡 |
| 横浜FC | 7月6日(日)18時～ | 日産スタジアム | アビスパ福岡 |
| 横浜FC | 7月5日(土)19時～ | 日産スタジアム | アビスパ福岡 |

エコウェーブの開催日については各チームのウェブサイトが最優先となります。

街の明かりを消して キャンドルナイト in 川崎

■日 時 / 7月7日(月) 18:00～22:00(雨天決行) ■会 場 / ラ・チッタデッラ(LA CITADELLA) 横浜店
(消灯時間は20:00～22:00)

内 容

- ガストライヴ (19:45～20:30) ※自由参加イベントがメイン
- ミュージック・キャンドルの配布 (18:00～19:10) (数量限定)
*参加者の皆さんがキャンドルにメッセージを記入し、希望に添います。
*参加費なし(受付エントリー料 実費200円)
(申し込みは、ウェブサイト、ホームページ、電話(044-253-7000))
- 電球形蛍光灯の無料回収(アンケート回答者全員200名)
- スタンプラリー(エコガッタ本をプレゼント 先着400名)
*ラ・チッタデッラと川崎市環境局の協力で実施
- キャンドルナイトイベント(18:00～20:00) (7月7日) >
*※ 無料 ラックアップ



キャンドルナイトイベントの情報は、ラ・チッタデッラ ホームページにて
<http://www.lacitadella.com/> (18:00～20:00)にて
(7月7日)に随時更新(本日は)で使用される電球は、人数制限
を設けられ、必ず、(1)エコ電力証書の購入(2)エコウェーブ
のロゴを印刷したメッセージカード(3)メッセージカード
*※ 無料 ラックアップ

※お問い合わせは、川崎市環境局庶務課環境室 電話044-253-7000

八都県市の取組み



第51回八都県市首脳会議(平成19年5月)

再生可能エネルギー拡大検討会設置
(東京都提案)

八都県市首脳会議の構成
埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県
の知事並びに横浜市、川崎市、千葉市及びさいたま市の市長

国へ要望実施

グリーン電力証書の損金計上

地方交付税への算入

電気のグリーン購入、環境
配慮契約の拡大について
検討

第52回八都県市首脳会議(平成19年11月)

エネルギー供給地域かつ大消費地である首都圏が積極的に再生可能エネルギーの拡大に取り組む必要があるため、更に国への要望について検討

要望の趣旨



- 京都議定書の削減約束の確実な達成
- 更なる長期的な排出削減を目指す

再生可能エネルギーの
大幅拡大が不可欠

- 温室効果ガス排出量は増加
- 再生可能エネルギーの導入は進んでいない

電気事業法などのエネルギーに係る諸制度

再生可能エネルギーが大幅に導入することを想定していない時代に枠組みが作られている

- 補助金などの拡充に加え、

★技術・設備面

電力システムの整備、技術開発の促進

★制度面

制約なく受け入れられるような体制の整備が必要

国への要望（八都県市首脳会議）



再生可能エネルギー導入を前提とした社会の仕組みを作るために

（要望先：環境大臣、経済産業大臣 平成20年4月28日）

日本のエネルギー政策の基本方針に、再生可能エネルギーを大きな柱として位置付け、その導入目標量を飛躍的に引き上げ、目標達成を目指した取組を着実に進めること

太陽光発電や風力発電などが、制約なく受け入れ可能となるよう電力システムの適切な運用を図るとともに、その整備や技術開発を促進すること

既存の電力システムに関する情報を設置希望者などの関係者で共有できる仕組みを構築すること

カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略 (CCかわさき)

- 川崎市の地球温暖化対策の基本戦略を‘08年2月に発表

基本的考え方

「環境」と「経済」の調和と好循環を推進し、持続可能な社会を地球規模で実現するため、全市を挙げて取り組む

I 川崎の特徴・強みを活かした環境対策の推進

II 環境技術による国際貢献の推進

III 多様な主体の協働によるCO2削減の取組の推進



*E*conomy
*e*cology

CCかわさきのステップアップ

「地球温暖化対策地域推進計画」改定

・市民・事業者等と協働し、排出量の把握と削減目標の数値化及び実効性のある施策についてとりまとめ

→ 新エネルギービジョンも含めて改定

「(仮称)地球温暖化対策条例」制定

・推進計画をより実効性あるものにするため、温暖化対策のルールとして条例化

おわりに



- 川崎市では、「環境」と「経済」の調和と好循環を推進し、持続可能な社会を地球規模で実現するため、全市を挙げて取組んでまいります。

